

2012 公開講座・しゃべり場グループディスカッションまとめ 7月11日実施

<しゃべり場 バズセッション> (グループ討論)

様々な不安を抱えながら、福島で子育て中の母親にメッセージを送りたいと思います。

- ・前半参加者：64名（会員：9名、会員外：55名(安井先生、小島様含)
- ・後半参加者：44名（会員：8名(市川・小林・飯塚含)、会員外：36名(安井先生、小島様含))
- グループ着席者：39名（男性：26名、女性：13名）

【Aグループ：5名（男性：1名、女性：4名）】

《メッセージ・まとめ》

「福島の母親へのメッセージ」と言うが、子育ての不安はいつの時代、どこでも同じではないか。死亡者の出なかった東電事故を「福島」と括って取り上げることも問題だと思う。

今の日本は宗教と思える程混乱している。リーダーも含めて落ち着かないといけない。時間が解決する部分もある。互いに寄り添い、思いを受けとめあうことが大事。福島の事故から多くの母親が持っている不安には、「いい母親」の象徴のような側面もある。

《付箋》

- ・日本はみんな一緒
- ・子育て、生きていく不安は皆、抱えている。それが受けとめられると実感することが大事なのではないか。
- ・たくさんの情報がある中で受ける側が選択し、正しく知ることが大事だと思います。
- ・私は専門家ではありません。でも私の信頼できる専門家の方はだいじょうぶと言っています。安心して下さい。
- ・福島のお母さんへのメッセージ → ではなく → 日本のお母さんへのメッセージ

【Bグループ：5名（男性：4名、女性：1名）】

《付箋》

- ・放射線そのものが何であるか知りたくありませんか？何でも答えます。
- ・ココには疑問に答えてくれる人がたくさんいます。どんなことでも聞いてほしい。
- ・私は信頼できる測定器をここに持っています。何でも聞いてください。
- ・放射線の影響などで不安に思うことがあった場合は、あまり一人や家族で抱え込まず、なるべくみんなとざっくばらんに対話を重ねてみてください
- ・放射線そのものよりも、それを怖がるストレスの方が怖い。
- ・私たちの身体からも放射線が出ています。宇宙からも、大地からも、空気中も。今のレベルは怖がらなくても。
- ・コミュニケーションを取るには、(人間的)に信頼してもらうことが第一。
- ・研究者は使われるためにあります。自由に活用して、知識を選択してください。
- ・実は私も放射線のことにはよくわからない。一緒に学びたいです。

【Cグループ：5名（男性：3名、女性：2名）】

《メッセージ・まとめ》

放射性物質だけでなく、他の色々あるリスクの中で放射性物質のリスクの大きさを考えよう。
(体験談、具体例を出しながら)

《付箋》

- ・放射線のリスクは一般に言われる程、高くない。
- ・話を聞く！共感？ 別の場所に行きたかったら行ってもいいと思うよ…というスタンスで、60年代のときと放射性物質の量は同じくらいみたい。その頃の大人は皆元気だしという話も。
- ・放射線の健康影響についての客観的情報を整理して提供する。一緒に意見交換する。
提供内容として、身の回りの放射線、自然放射線の地域差、他のリスクとの比較。
- ・放射性物質のことばかり心配して他の危険を忘れ、全体的に考えると体・健康に悪いことにならないようにして下さい。私自身は、極わずかな残留農薬や添加物を心配するあまり、無農薬野菜にも危険な物質があることを知らず、盲信したり、油の多いスナックをおやつに与える回数が多かったです。危険な度合いを考え合わせないと本当に良い生活にはならないです。
- ・放射線についての理解、各個人の考え方の硬さ・偏りがある。
総合的な「リスク」で考えてほしい

《討論内容》

- ・その人に合った話をしたい。一人一人全員違うだろうから、対話しながら共感が大切。
60年代の核実験の頃の中学生の尿と今の福島の中学生の尿でセシウムが出る量は近いので大丈夫だろう。
- ・リスクについて全世界共通の場で話されるが人によって考えが違う。
他のリスクも考え合わせないと。専門家には義務があるのではないか。
- ・こちらから持って行くのはダメだと思う。科学的・客観的データを整理して持っていく。
基準値の意味、1ベクレルでも少ない食品をネットで買うなどを皆さんが納得した形で。
- ・そんなにリスクは高くありません。
マスコミも政治家自分の都合の良いことばかり。重要な内容をマスコミも政治家も伝えていない。
- ・なるべく対話に持ち込む。

【Dグループ：4名（男性：4名）】

《メッセージ・まとめ》

- ・放射線の不安について聞く。
- ・それについて自分の思いで話すだけでなく、相手の反応をしっかりと見て自分の言葉で話す。
- ・平常時のリスコミからの脱却。

《付箋》

- ・お母さんへのメッセージは思い当たりません。何が心配か聞きたい。それに対して知っていることを答える。

- ・放射線のことを心配ですよね。一緒に考えてみましょう。少し心配事が減ると良いです。
- ・相手が何に不安を持っているのかを事前に把握してコミュニケーションに臨む。
学会発表の延長ではダメ。
自分の思いをしゃべって終わりではなく、反応を確認、場数を踏む。
- ・話を聞く。平常時のリスコミからの脱却。
専門家としての信念で話す(意固地ではない)。

【Eグループ：4名（男性：3名、女性：1名）】

《付箋》

- ・食べ物で不安を少しずつ減らすことができるのではないかと思います、仕事をしています。
- ・話を聞く、不安を聞くことから始めたい。
自分も事故が起きたときは分からないので不安だと思った。でも学んでみて安心できた。一緒に知っていこう。
- ・私はあなたの不安を解消する答えを必ずしも持っていません。でも一緒に学びどうしたら良いか考えることはできます。共に行動しましょう。
- ・聴きます。
- ・家の除染は進まなくとも、遮断の技術はあるのではないかと研究しています。
- ・聴いて下さい。答えます。

【Fグループ：6名（男性：3名、女性：3名）】

《付箋》

- ・徒らに不安がらないで。話し合ったり助け合ったりすることが大切かなと思います。
- ・福島のお母さんには、何も言えない。
関東近県で不安にかられていて福島産を避けているお母さんには、食品からの内部被ばくは心配しないでバランスのとれた食事を、できれば福島の農業復興の支援をと言いたい。
納得できないのであれば、放射能の測定やデータの解釈を一緒に考えたい。
- ・確かにどんなに注意していても放射性物質を口にするかもしれません。ですが、今、口にする放射性物質は何でしょう？その生物学的半減期はどのくらいでしょう？だから大丈夫ですよ。放射性物質は蓄積するとは限りません。
- ・福島のお米を買ってあげる運動を首都圏で展開すべき。
- ・被害は福島以外の人も含めてみんなで分け合って受け入れて解決していきましょう。

【Gグループ：6名（男性：5名、女性：1名）】

《メッセージ・まとめ》

- ・どれだけ相手の立場を慮れるか？
- ・話をまず聴く。
- ・信頼して頂けるか。
- ・安心は自分で解決するしかない。

・Heart to ♡で 「いかがされていますか？」

《付箋》

- ・お話を一生懸命聴きます。
- ・いかがですか？
- ・不安に思うと思いますが情報をしっかり聞いてほしいです。
- ・お子さんは大丈夫だと思います。
- ・まず相手の立場に立つ。
安全・・・ある程度の基準がある
安心・・・人により異なる。安心を得るには個人の努力が必要。
- ・外部被ばくは大丈夫！！でも食べ物には注意して。

【Hグループ：4名（男性：3名、女性：1名）】

《メッセージ・まとめ》

- ・まず、福島に行くこと。何を語らずとも、気楽に → 福島応援中(事故後初めていわき市、郡山市、福島市を訪問)
- ・福島の方と会うこと。求めているものを知ること。
- ・自立することを気付かせること。被害者意識のままでは復興できない。前を向いて。
- ・科学者は神でも仏でもない！全知全能ではない。現状、自分の周り、位置を自分で探して。
- ・人にはそれぞれ重荷を背負っています。原発事故は、とてつもない重荷です。頑張って乗り越えてください。